



落穂会だより

新春号 2018.1

社会福祉法人 落穂会 障害児入所施設 障害者支援施設 地域生活支援センター 障害者支援施設 障害福祉サービス事業
 あさひが丘学園 あさひが丘 あさひが丘 旭福祉センター 第二旭福祉センター
 鹿児島市皆与志町2503番地 (Tel 238-4821) (Tel 238-4821) (Tel 243-1112) (Tel 244-3551) (Tel 244-3551)
<http://www.asahigaokagakuen.jp/> <http://www.asahi-center.com/>



職員必携書「共生と共創」の発刊にあたって

社会福祉法人落穂会理事長 水流純大

社会福祉法人落穂会は昭和三十三年五月に設立されました。その約二年前の昭和三十三年八月には、創設者の水流國彦が精神薄弱児施設（現・障害児入所施設 あさひが丘学園）を開設し、すでに障害児福祉事業の運営を始めています。今では考えられないことですが、施設の開設が先で法人認可はその後の時代でした。

施設開設から五十九年、法人設立から五十七年の時が経過し、現在では、障害児入所施設、障害者支援施設、児童発達支援センター、放課後等デイサービス事業、就労移行支援事業、就労継続支援事業、共同生活援助事業、居宅介護事業、相談支援事業（総定員数四百七十五名）などを運営し、主として知的障害や発達障害のある方を支援しています。

法人開設から約六十年の間に障害児福祉を取り巻く状況や考え方も「保護・更生」から「自立支援」そして「共生社会の実現」へと大きく変わりました。障害者基本法第一条に示されている「障害のある人もない人も共に生きる共生社会」を実現するために、平成二十九年四月、法人の経営理念を「共生と共創」だれもが「生まれてきてよかった」と思える共生社会を創造する」と思える共生社会を創造する」と思っています。

この度、新たな法人の経営理念を絵に描いた餅に終わらせることなく、具体的に実現するために大切にしている価値観や方向性、戦略、行動指針マニュアル、地域創生への四ステップ、関係機関との連携強化、人材育成など職員の皆さんにしっかりと理解してもらいたいと思っ

て、このことをまとめた「社会福祉法人落穂会職員必携」を刊行いたしました。

落穂会の職員は皆この「職員必携」に書かれていることが、自分の心と体に染み渡るまで繰り返し、繰り返し読んでほしいと思います。この本に書かれている大切な考え方を十分に理解した職員がその考え方に沿った支援を行っていくことが、法人理念である「共生と共創」だれもが「生まれてきてよかった」と思える共生社会を創造する」の実現への原動力になるものと信じています。

成人おめでとう 大空にはばたけ

◆あさひが丘
池 智史さん
これからも、毎日元気で楽しく、一步一步成長していきたいです。

岩松 洋輝さん
これからも通所での作業を元気に笑顔で一生懸命がんばります。

坂元 綾香さん
二十歳となり大人の仲間入りとなりました。成長出来るよう何事にも一生懸命頑張ります。

伊達 佑騎さん
これからも、ひとりでできることが増えるようにがんばります。

永谷 朱史さん
笑顔一杯元気に皆様と生活できる様にこれから頑張ります。

中山 翔太さん
大人になりました。これからも、元気に過ごしていきます。

◆地域生活支援センターあさひが丘
和田 京平さん
二十歳になったので、あすもねの仕事がんばります。

米澤 佑紀さん
二十歳になりました。これからも、元気に仕事をがんばります。

直島 美聡さん
無事に成人を迎えることができました。これからも日々、頑張ります。

新入所者紹介

◆あさひが丘学園
内屋 泰樹さん
これから、サッカーやべんきようをがんばりたいとおもいます。

嶋本 ころろさん
好きなことは、読書と勉強です。これからよろしくお願ひします。

曾木 花音さん
AKB48のまゆゆがすきです。よろしくおね

◆旭福祉センター
竹之内 直也さん
二十歳になって大人の仲間入りをしたので、なんでも頑張ります。

がいます。
米山 博之さん
がんばりたいことは勉強とスポーツです。宜しくお願いします。

新任職員紹介

◆地域生活支援センターあさひが丘
濱田 寿樹 支援員
利用者様の笑顔を引き出せるような支援員を目指し頑張ります。

山下 直人 支援員
利用者の方々に寄り添い、笑顔で過ごすことが

◆旭福祉センター
垂口 展之 支援員
利用される皆さんが日々、笑顔で過ごせるよう支援していきたいと思ひます。

池田 博人 支援員
日々勉強の毎日ですが、利用者とともに楽しくがんばっていきます。

内村 朋美 支援員
笑顔いっぱい皆さんに元気をもらって楽しく働いています。よろしくお願ひします。

ペアレント・プログラムについて

10月24日から12月5日にかけての計6回、鹿児島県子ども総合療育センターで研修を受けた児童発達支援センター長の水川が講師となり、ペアレント・プログラムが行われました。本プログラムはこどもの個性にあった育て方を知り、子育てを楽しむための「子育ての応援プログラム」です。全6回のプログラムの中で、参加者同士のグループワークを通して、子どもへの接し方やうまくいく行動のコツを学ぶ機会となりました。鹿児島大学教育学部特別支援教育養成課程教授の肥後祥治氏からもアドバイスをいただきながらプログラムを実施することができました。

参加した保護者からは、

- ・叱るより褒めることでこどもの行動がかわった。また褒めることが増えることで家庭の雰囲気も良くなった。
- ・育児、家庭、自分の事を見直す良い機会になった。
- ・困っていることも見方を変えればそうでもなくなることがわかった。

などの感想もいただきました。ご参加くださった保護者の皆様、ありがとうございました。



行事報告

九月

- 9月30日～10月1日 入所旅行(宮崎)

旭福祉センターでは入所利用者8名と職員2名で宮崎へ旅行に出掛けました。名物の子キン南蛮を食べ、水中観光船で海中の魚をみる体験をして、楽しい2日間になりました。
- 9月29日～10月1日①グループホーム名古屋旅行

10月27日～29日②

 - ・1班は利用者9名職員3名、2班は利用者8名職員3名でリニア鉄道館やレゴランド、名古屋港水族館、NHK名古屋放送局など多くの施設に行きました。大好きな電車に乗ったり、おいしい名古屋飯を食べ、満足した2泊3日の旅行になりました。鹿児島に戻ったあとも購入したお土産を嬉しそうに職場に持って行っていたのが印象的です。

十月

- 10月3日(火) 総合防災訓練

あさひが丘では、伊敷分遣隊職員の協力のもと夜間想定避難訓練を実施しました。訓練後には、伊敷分遣隊職員の方から利用者・職員に向けた講話がありました。職員への講話では、実際に消火器を使用した訓練や指導もありました。
- 10月12日～15日 ベーカーリー感謝フェア

旭福祉センターのベーカーリーでは、10月12日から4日間日頃ご愛顧頂いているみなさまへの感謝の気持ちを込めてフェアを行いました。ピザづくり体験ではたくさんの方に参加いただきました。初めてパン生地に触れる方もいて、楽しかったとの声をいただきました。
- 10月13日(金) ビューティ講座

あさひが丘では、資生堂から講師を招き女性利用者中心のメイクアップ講座を開催しました。女性利用者、職員と一緒に受講し、メイクアップの方法などを学びました。
- 10月14日(土) 児童発達支援合同運動会

児童発達支援事業(歩路・ガーデンキッズセルフ・トリア)の合同運動会を青少年研修センターで実施しました。子ども達74名、ご家族192名の参加がありました。かけっこや親子競技など様々なプログラムが準備され、子ども達や保護者の笑顔が印象的な運動会でした。
- 10月17日～18日 農福連携マルシェ2017秋の収穫祭

旭福祉センターでは農福連携マルシェに参加しました。販売に行った利用者の方から、日頃作っている農作物や加工品等がお客様に選ばれる所を直接みることで今後の作業に向けての意欲も高まったとの声がありました。
- 10月24日～12月5日 ペアレントトレーニング(計6回)

10月24日から12月5日の期間に計6回にわたってペアレントトレーニングを実施しました。ガーデンキッズセルフトリア・歩路・ピッコロから7名の保護者が参加しました。研修を終えた保護者からは、トレーニングに参加して子どもが頑張っているところをほめる機会が増えたなどの意見を頂きました。
- 10月27日～29日 ハッピーフェスタ

あさひが丘では、ハッピーフェスタに3日間参加しました。レザークラフトや陶芸品などお客様より好評でした。
- 10月28日(日)、11月3日(土) 保護者ボランティア

今年度は、秋まつり開催に向けた準備を保護者会の皆様にお願いました。お母様たちには、秋まつりのフリーマーケット用品の値札付けと、花紙作り。お父様たちには、看板製作を手伝って頂きました。秋祭り前日には、お父様たちを中心にテント設営協力。秋まつり終了後にも、保護者会のお父様、お母様達の協力もあり予定よりも早く終了することができました。準備から片づけまで協力ありがとうございました。

十一月

- 11月2日(木) 第2回児童発達支援事業所研修会

関係機関から25名の参加がありました。今回はガーデンキッズセルフ・トリアの療育の見学後、臨床発達心理士の松本が「発達特性に応じた支援」と題して講話を行い、グループに分かれての意見交換会を行いました。各グループからは様々な事業所と情報交換が出来て良かったなどの意見を頂きました。
- 11月4日(日) 第4回秋まつり

(ASAHIYAワークショップ②)

詳細は2面をご覧ください。

十一月

- 11月6日～8日③ グループホーム長崎旅行

・利用者7名、職員2名で長崎ハウステンボスに行ってきました。新幹線や電車での移動でしたが、移動中も楽しんでいました。ハウステンボスでは豪華なご飯やイルミネーションを楽しみ、有意義な3日間を過ごしています。体調不良も無く元気に帰宅し、土産話に花を咲かせていました。
- 11月8日(日) 川上小学校バザー

今回、初めての取り組みであるワークショップ(革のキーホルダー製作)を行いました。子ども達やお母様達のロコミにより大盛況で終わることができました。
- 11月5日～6日 入所旅行(長崎)

旭福祉センターでは入所利用者10名・職員2名で長崎へ一泊二日に出掛けました。ハウステンボスのイルミネーションを満喫し、九十九島めぐりの遊覧船で長崎の自然にも触れることができ良い思い出になりました。
- 11月19日(日) 第52回ふれあいバザー

詳細は2面をご覧ください。
- 11月21日(火) 日中1科 日帰り旅行

あさひが丘の生活介護、日中1科の利用者20名、職員7名で日帰り旅行に行ってきました。平川動物園内のレストランで食事を摂り、園内散策を行いました。
- 11月26日(日) 緑ヶ丘朝市

旭福祉センターでは、毎月第4週日曜日に緑ヶ丘商店街で行われている朝市に初めて参加しました。地域の方に温かく迎えていただき、センターで作っているパンや花苗の販売を行いました。地域のみなさんにセンターでの取り組みを知ってもらい、交流を深めるよい機会となりました。今後も継続的に参加させていただきます。
- 11月30日/12月1日・4日 川上小学校見学・体験

詳細は2面をご覧ください。

十二月

- 12月5日(火) 利用者合同忘年会

旭福祉センターでは城山観光ホテルで入所・グループホーム利用者と忘年会をしました。毎年恒例のカラオケ大会は大盛り上がりで皆さんとても楽しんでいました。
- 12月10日(日) 伊集院うめマラソン

旭福祉センターでは利用者9名、職員12名で伊集院うめマラソン(3キロの部・10キロの部)に参加しました。初めてマラソンに挑戦する方もいましたが、全員完走することができました。夜は栄養会で焼肉をおなかいっぱい食べ、充実した1日でした。
- 12月10日(日) 大相撲鹿児島場所見学

あさひが丘学園の児童利用者6名、グループホーム入居者6名が九州巡業大相撲鹿児島場所の見学に参加しました。テレビで見る相撲とは違い、迫力ある取り組みに興味が湧きながら相撲を観戦することができました。一緒に写真も撮ることができ参加した利用者の皆さんはとても満足そうでした。
- 12月7日(木) クリスマスツリーの飾りつけ

今年もあさひが丘学園へクリスマスツリーの飾り付けにお母様達が来てくださいました。
- 12月14日(木) 児童発達支援センター歩路 公開療育

関係機関や児童発達事業所から16名の参加がありました。4クラスの療育の様子を見学して頂いた後にグループごとに意見交換会の場を設け、療育を見学した感想やご意見を頂きました。参加者からは療育の参考になったなどの意見を頂きました。
- 12月16日(土) 日中活動参観2回目、保護者懇談会

あさひが丘では、30家族35名の保護者が来園、一緒に日中活動に取り組みました。活動参観後は、各科の活動を写真や動画で紹介しました。
- 12月24日(日) Y. P. Oチャリティーコンサート

今年も学園からグループホームまで沢山の入居者を招待して頂きました。生演奏に、とても楽しい時間が過ごせました。ありがとうございました。
- 12月26日(火) 学園忘年会

あさひが丘学園忘年会をジェイドガーデンパレスで行いました。利用者、保護者、職員含め324名が参加し食事やカラオケを楽しみました。
- 12月26日(火) 旭福祉センターもちつき

今回は地域の方9名にお越しいただき、餅つきを行いました。みんなでついた餅を食べた後は、音楽療法の発表やカラオケをしておおいに盛り上がりました。

第五十二回ふれあいバザー

十一月十九日(日)、旭福祉センターにて第五十二回ふれあいバザーを開催しました。天候にも恵まれ多くの方にお越しいただきました。今回のバザーでは、前回好評いただいた地域の方を中心としたフリーマーケットや子供供たちに大人気のプラレールコーナー・旭福祉センターで陶芸班として活動している利用者が先生となって行う陶芸教室に加えて、新たにアイロンビーズ体験の開催や緑ヶ丘地域のみどり会の方々にポップコーンの販売をしていただきました。バザーが始まるとすぐに会場はたくさんのお客様で賑わいました。



利用者の方も、自分たちが日頃作っている野菜やパン・陶芸品・味噌などをお客さんに紹介し、荷物を運ぶお手伝いをしてくれました。午後からは徳永和喜さんによる「西郷南洲翁の魅力」について講演会を開催し、たくさんの方にお越しいただきました。「楽しかった」「利用者さんの顔をみると元気をもらえる」などのお言葉をいただくことができ、職員・利用者共々嬉しい限りです。ボランティアの方にも多数ご協力いただきました。みなさんありがとうございました。



11月4日(土) 素晴らしい秋晴れの下、第4回「あさひが丘 秋まつり」が開催されました。お陰さまで来場者も1000名を超え、初回から比較すると倍増となり、会場は大なる熱気に包まれました。幕開けは、鹿児島女子短期大学ヤング踊り連 Team 鹿女短。その一糸乱れぬ美しい踊りで会場の観客を湧かせていました。さらには春山地区のきずな会による踊りや薩摩の猿まわし「広美&なな」によるパフォーマンス等々、総勢8組の方々に出演して頂き、多様なステージが繰り広げられました。他にも、「まうるーる」さんからの協力を頂き、動物ふれあいコーナーを設けましたが、こちらも非常に好評でした。まつりの最後は、恒例となりましたお楽しみ抽選会を開催しました。今回は、サプライズ賞も設定し、予期せぬ当選条件に例年以上の盛り上がりを見せました。第2会場でもみかん狩りに加えて乗馬体験もして頂き、こちらも500名近い方に足を運んで頂きました。今回の秋まつりは、「みんなで創ろう地域の輪」をテーマに、地元きずな会の皆様に加え、春山地区の有志の方々で立ち上がった棒踊り保存会の出演、地域の方の販売コーナーもあり、私たちと地域の皆さまがこれまで以上に関わりながら開催する事ができたのではないかと考えております。これからも、より皆様に愛され、楽しんで頂けるイベントを目指して、地域一体となって取り組んでいきたいと考えております。当日来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。

川上小学校見学・体験

11月30日(木)、12月1日(金)・4日(月)に川上小学校の4年生が活動見学・体験に訪れました。旭福祉センターで行われている野菜袋詰め・額縁作成・みかん狩り・音楽療法・レクリエーション・蔬菜・陶芸・菓子の日中活動をグループ別に体験してもらいました。

初めて施設を訪れる児童も多く、最初は緊張している様子でしたが利用者の方とのふれあいを通して帰るころには互いに笑顔で手を振り合う姿が見られました。

活動後に児童から「利用者の方が優しく教えてくれて楽しかった」との感想をもらうことができました。また利用者からも児童との交流が楽しかったとの声がたくさん挙がり良い体験になりました。



春山地区10班の常会、四郎丸にて開催



昨年度よりグループホームも地域で暮らす一員として、地域の常会(定例会議)に参加しています。今回、四郎丸、くるみが所属する春山地区十班の常会を十二月十七日にグループホーム四郎丸にて開催することとなり、地域の常会に参加するようになってから初めて常会会場としてグループホームを提供することができました。地域の皆様もグループホームではどのような生活をしているのか、どのような方々が暮らしているのか気になっていたようで、グループホーム内部や利用者さんの生活を見ていただく良い機会となりました。利用者の皆さんも次々に

地域の方々が来るのが嬉しいよう
で笑顔で挨拶し、出迎えているのが印象的でした。今後
も地域の一員として、
交流を図り、
常会や行事
などに参加
していこう
と思います。

「シュバルで働いて」

あさひが丘 利用者
今村 光良

さんぽみち



僕は、シュバルで働いています。シュバルでの仕事内容は厩舎で馬のふんを集めたり馬のお世話をしています。馬にブラシをかけたり、エサをあげたり、ひづめのつまりを取ったりしています。他にもトイレ掃除、放牧、馬着などを一生懸命頑張っています。

初めてのときは、馬が怖くて仕事が出来なくて失敗もありました。シュバルで働いて一年が過ぎようとしています。今では、だんだん馬が好きになって仕事もちよつとずつ出来るようになりました。馬に乗る事は得意でないので、今の仕事を頑張るに馬にも乗れるようになりました。

シュバルの仕事が上手に出来るようになったら、次は荷物配達とかスポーツ店の店員にも挑戦してみたいです。お金をためてお父さんや甥っ子にいろんなものを買ってよければいいと思います。そしてお金をためて一人暮らしができるように頑張りたいです。

「日々感謝」

旭福祉センター 保護者
横山 朋子

息子・文宏が旭さんとご縁が始まったのは平成二十一年九月でした。それまで列車に乗り行く職場で、四年近く頑張っていました。が心身共に疲れ、どうしても辞めざるを得なくなりました。「さて、これからどうしてやったら良いものか」と知人に相談したところ、「旭福祉センターの園長はとてもバイタリティがあつて元気をもらえる方だよ。訪ねてみたら。」とのアドバイスで迷う事なく早速こちらに伺い、現状を話し、通所の手続きをさせて頂きました。通所から離れたとても静かで自然あふれる環境にも安心感がありました。近くのバス停からセンターの車が待つているバス停まで行き、送迎バスに乗り換えて行くコースも、楽しんでいく様子でホッとした事を懐かしく思い出します。

二年ほどしてから、障害者対象の介護福祉士の資格取得の為、いったん退所させて頂きました。一年間お寄りのお世話をする仕事に就きました。思ったより困難が多く、また三年後旭さんに戻って参りました。本人は、戻るのは恥ずかしいと言つて二年ほど家で過ごしましたが、話を聞いて頑張ろうと納得させ、二年前から改めてのスタートとなりました。職員の方やセンターの皆さんたちが温かく迎えてくださり、今に至つ

「ご近所職場」

旭福祉センター 職員
原口 春美

四年前、四十代も終わりのころ痛切に思いました。「もう通勤にパワーを使いたくない。」体力も気力も格段に落ちてきた。ならば、「通勤」という問答無用で毎日消費する力ができるだけ削り落とそう。空いた時間で大好きなアニメを楽しもう。

当時うちで飼っていた(今も飼っている)ヤギに、旭福祉センターの野田さんがトウの立つた処分野菜を持ってきてくれていました。ある日勇気を出して恐る恐る聞いてみました。「職員の募集をしてらっしゃいませんか？」

ありがたいことにご縁があり、採用していただき、なんと自宅から徒歩一分の職員になることができました。これ以上に近い職場はありません。

ん。自分の畑や山ですらこれより遠いのです。

あれからもう四年、端的に言つて最高です！毎日が楽しくエキサイティングです。施設長や第二施設長、その他職員の方々のおかげですがこれまで仕事が楽しくなるとはうれしい誤算です。

職場がご近所であるということは、自分の生活範囲もご近所であるということ。自分が所属する地域社会もこの中に含まれます。このことがこれほど複合的に職場の側にも地域の側にも自分側にも有効に働くとは想像もしていませんでした。

春山地区は母方のご先祖様が五代前から住んでいる土地です。わたしのようなおたくでも恩ある地域社会のお役に立ちたいという気持ちはあります。なによりこの山の中の静かで水がおいしい土地が大好きなのです。

そう思っているところへ、今回センターのご好意で春山三班町内会の班会を開くスペースを貸していただけることになりました。もう、三班の方たちが大喜びです。何十年もみなが苦しんでいたことが解決に向かいます。これほどありがたいことはありません。

自分が「楽をしたい」と思つて就職したことが、地域の役に立つことになり、ひいてはセンターの「地域貢献」の役に立つ。今「地の利」という言葉をしみじみとかみ締めています。

さんぽみち



GH名古屋旅行

レゴランドに行ってきました。

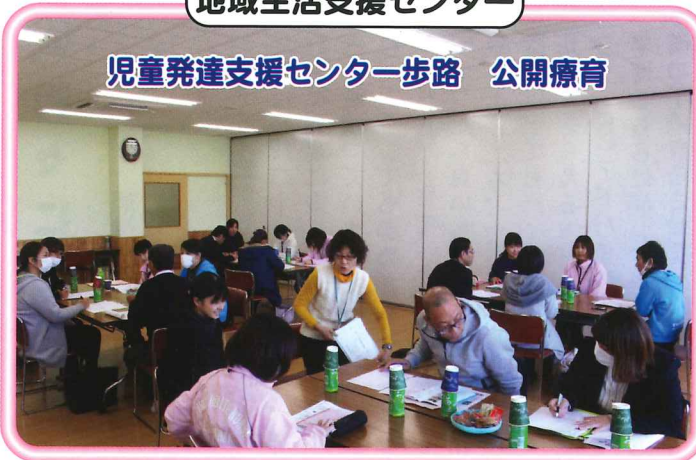
地域生活支援センター



平代丸闘と一緒に

大相撲観戦

地域生活支援センター



児童発達支援センター歩路 公開療育



児童発達支援合同運動会

すなつぶスナツプ



うめマラソン

旭福祉センター

全員完走することができました!!



もちつき

旭福祉センター



→お友達と看板製作

あさひが丘学園

花紙作り

保護者会 ボランティア活動

秋まつり用品の値札付け作業

クリスマスツリーの飾りつけ



あさひが丘学園

日中1科 日帰り旅行 (平川動物園)



総合防災訓練

あさひが丘学園

消火器の使用方法などを学びました。



あさひが丘学園 サンタさんからプレゼント

忘年会

旭福祉センター

今年も一年間おつかれさまでした!



→資生堂 講師によるメイクアップ講座

ビューティ講座

あさひが丘学園

←基本的なメイクアップ方法を学びました